セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDUP
FDUVP　802～2802

PJD012D009

お願い

○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
▶油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）
熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
▶腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。熱交換器の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
▶潮風が当たる所（海浜地区）。外板、熱交換器の腐食の原因となります。

⚠注意

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
▶アースを取ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は誤作動や感電の原因になることがあります。
▶漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
▶エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動及び運転音増大の原因になります。
▶冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg/m³）を超える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

〈お願い事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご説明ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあってお りますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

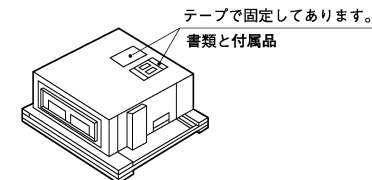
付属品

① ドレン関係

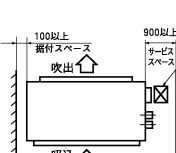
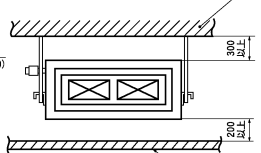
1	ホースクランプ		1個	ドレン配管用

② フレアナット部断熱用（80～160のみ）

1	パイプカバー(大)		1個	ガス側用
2	パイプカバー(小)		1個	液側用
3	バンド		4個	

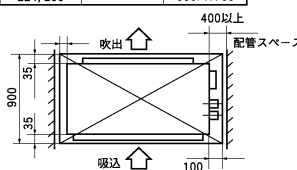
付属品収納場所（梱包時）

②室内ユニットの据付場所の選定

（室内機）

据付＆サービススペース
（ここに示す据付＆サービススペース、空気条件、風量限界は必ず守ってください。）

左記に示す条件が満たされない時には次に示すような方法が可能です。

平面図（単位：mm）
全シリーズ
正面図については左記と同様とします。

点検口

機種		大きさ
標準機シリーズ	インバータシリーズ	
80, 112	80	900×980
140, 160	112, 140	900×1360
224, 280	—	900×1730

1．据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ●冷風または温風が十分行きわたる所。据付高さが3mを越えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をお勧めください。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。

（高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等露付に対する配慮をしてください。本ユニットは、JIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると、水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体の全ての配管、ドレン配管にさらに10mm〜20mmの断熱材を取り付けてください。）

2．据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。

空気条件・風量限界

(50Hz/60Hz)

標準機シリーズ	インバータシリーズ	風量 m³/min 定格	下段	上段	室内ユニット吸込空気温度 冷房	暖房	室内ユニット周囲の空気温度
80	—	20/24	15/18	25/16	上限24℃WB 外温35℃のとき	上限27℃DB 外温20℃WB以下	上限 露点温度 28℃以下 相対湿度 80％以下
112	80	27/32	20/24	34/35			
140	112, 140	34/40	26/30	43/44	下限16℃WB 外温15℃のとき	下限10℃DB 外温−10℃WB以上	
160	—	41/48	31/36	52/53			
224	—	51/60	38/45	65/66	くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。		下限 0℃DB
280	—	68/80	51/60	87/88			

③ユニットの搬入、据付

搬入

○搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
○やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないよう注意してください。

（梱包金具について）
梱包金具（4コ）は不要ですので捨ててください。

据付

〈吊りボルト固定方法〉
下図のいずれかの方法で吊りボルトを固定してください。

〈水平度の調整〉水準器を使用するか、下図の要領で水平度の調整を行なってください。

配管側をさがりぎみにしてください。

水平度がでていないとフロートスイッチの誤作動あるいは不作動の原因となります。

〈吊りボルト位置〉

機種		A
標準機シリーズ	インバータシリーズ	
80, 112	80	890
140, 160	112, 140	1270
224, 280	—	1640

④ダクト工事

①エアコン本体にはエアフィルタが付属されていません。掃除の容易な吸込グリルに組込んでください。
②消音チャンバーは据付ける室内の許容される騒音値によって取付けてください。
　特に低騒音とする必要がある場合は、さらに消音装置が必要です。（事務所、会議室などでは必ず取付けること）
③エアコン本体の振動が天井およびスラブに伝わらないようにダクトはキャンバス継手、エアコン本体は防振ゴムにより防振してください。
④OAダクトの接続口には、据付後の風量調節ができるよう、風力調節ダンパを取付けてください。
⑤吹出口は室内全般に空気が流れるように位置、形状を選びさらに風量が調節出来る構造のものを使用してください。
⑥天井面に点検口を必ず設けてください。電装品、モータ、機能品のサービス、熱交換器洗浄のために必要です。
⑦ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
　保温材の厚さは65mm（JISA9501)です。

〔重要〕
オプション補助電気ヒータを組込むときの注意

①可燃性の部分から周囲60cm、上方にあっては100cm（1メートル）以上の距離を保つこと。
②電気ヒータが有効に点検できる位置に1辺の長さが60cm以上の大きさの点検口を設けること。

〈重要〉
オプション補助電気ヒータを組込むときはパッケージエアコンを取付ける前に「火を使用する設備等の設置届」を作成し、所轄の消防署等に届出をおこない、審査又は検査を受けること。届出書は左記①②の他に防火対象物の案内図、設置する階の平面図、立体図、構造図、室内仕様表、付属設備図などの図面が必要です。

ダクト施工の悪い例

①吸込側ダクトを使用せず、天井内を吸込ダクトにすると換気扇の能力や外気ガラリに吹きつける風の強さ、天候（雨の日など）等により天井内が高湿度となります。
（イ）ユニットの外板に結露し天井に滴下するおそれがあります。
　ユニットは上表の空気条件及び風量限界内で使用してください。
　コンクリート建築などで新築の場合も天井内ダクトにしなくても湿度が高くなることがあります。
　この場合はユニット全体をグラスウール（25mm）で保温してください。
　（金あみなどでグラスウールをおさえてください。）
（ロ）ユニットの運転限界（例：外温35℃DBのとき吸込空気温度24℃WB）をこえる場合も考えられ、圧縮機のオーバーロードなどのトラブルの原因となります。
（ハ）換気扇の能力、外気ガラリに吹きつける風の強さによってユニットの送風量が多くなり使用制限をこえてしまうため熱交換器のドレンがドレンパンに流れず、外部に流れだすこともあり、（天井にドレンが滴下する）水漏れの原因となります。
②ユニットとダクト、ユニットとスラブの防振をしないとダクトに振動が伝わり、天井と吹出口の間で振動音が出たり、スラブにユニットの振動が伝わることがあります。必ず防振してください。

〈簡易的なダクト寸法の決め方〉

ダクトの単位長さ当り摩擦抵抗を1Pa/mとして、ダクトは一辺が250mmのものを使用する場合の方法を示します。
140、60Hz定格風量の場合を例とします。

	風　量	ダクト（mm×mm）
Ⓐ部	2400m³/h（40m³/min）	250×560
Ⓑ部	600m³/h（10m³/min）	250×190

○ダクト抵抗の計算（簡便的に下表の如く計算する）

部位	計算
直　管　部	長さ1m当り1Paで計算する1Pa/m
曲　り　部	曲り部1ヶ当り直管に直して3〜4mとする
吹　出　部	25Paで計算する
チャンバー	1個で50Paで計算する
吸込グリル（フィルター付）	1個で40Paで計算する

〈簡易ダクト寸法選定図〉

1Pa/m

ダクトの形／項目／風量	□角ダクト
	寸　法
m³/h（m³/min）	（mm×mm）
100	250×　60
200	250×　90
300	250×120
400	250×140
500	250×170
Ⓑ部 600（10）	250×190
800	250×230
1,000	250×270
1,200（20）	250×310
1,400	250×350
1,600	250×390
1,800（30）	250×430
2,000	250×470
Ⓐ部 2,400	250×560
3,000（50）	250×650
3,500	250×740
4,000	250×830
4,500	250×920
5,000	250×1000
5,500	250×1090
6,000（100）	250×1180

ファンコントローラ操作要領

○本機は電装品箱に内蔵のファンコントローラのボリュームにより、連続的に風量を調節することができます。
　ダクト側でのダンパ等による風量調節（機外静圧調整）は必要ありません。
　使用ポイントが運転可能風量範囲内となるように設定してください。（上記の風量限界を参考としてください。）
　右図にファンコントローラの電装品箱内の位置と操作のしかたを示します。
○事前に別途技術資料にて発行されている送風機特性にてファンコントローラのボリュームNOを選定してください。
　電気工事終了後の試運転に選定したボリュームNOを右図の要領に従って合わせて、所要風量がでているかご確認ください。

ファンコントローラの操作のしかた

注）ファンコントローラを操作する際は、充電部に触れる恐れがあるので必ず電源を切ってください。

ファンコントローラ

電装品箱での位置

（140の電装品箱を代表例としています。ファンコントローラの位置は他の機種も同様です。）

⑤冷媒配管

冷媒配管接続口径、接続方式

〈R407C機〉

80	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
112〜160	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ19.05	フレア接続

〈R410A機〉

80〜160	液配管	φ9.52	フレア接続
	ガス配管	φ15.88	フレア接続
224	液配管	φ9.52（内径）	ろう付接続
	ガス配管	φ25.4（内径）	ろう付接続
280	液配管	φ12.7（内径）	ろう付接続
	ガス配管	φ25.4（内径）	ろう付接続

●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS　H3300）
●配管の曲げはできるだけ大きな半径で行ってください。曲げなおしを何回も行わないでください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。
●室内機配管はサービスパネルを取り外し可能とするため、配管方向がどのような方向でも必ずユニットから400mm以上のストレート部分を設けてください。
●フレア接続、ろう付接続は以下のように行ってください。

○フレア接続

・ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３〜４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。

フレアナット締付トルク

φ 6.35：14〜 18（N・m），（1.4〜1.8kg・m），φ 9.52：34〜 42（N・m），（3.4〜4.2kg・m）
φ12.7 ：49〜 61（N・m），（4.9〜6.1kg・m），φ15.88：68〜 82（N・m），（6.8〜8.2kg・m）
φ19.05：100〜120（N・m），（10〜12kg・m）

○ろう付接続

・ろう付作業時は、ろう付部周囲を過熱しないように濡れタオル等で冷やしながら実施してください。
●室内機の配管接続部は、ガス漏れチェック後、断熱を行ってください。

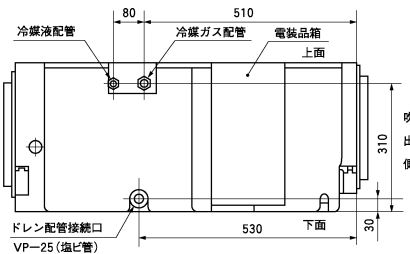
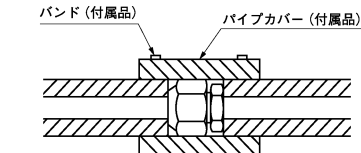
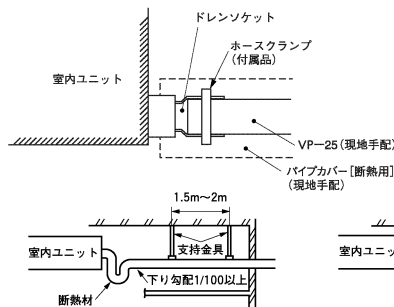
ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

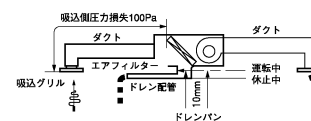
※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。
・フレア接続部は、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
・ろう付接続部は、現地にて断熱材を手配し、断熱してください。
●冷媒は、室外ユニットに充填されています。（室内及び接続配管分の追加量については室外の説明書をご覧ください。）

○フレア接続部の断熱

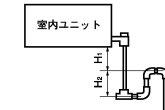
⑥ドレン配管

室内ユニット
山越え ✕

100mm以上
室内ユニット
下り勾配1/100以上
VP−30

○ドレン配管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP−25を使用してください。
○ドレン配管をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のホースクランプで確実に締付けてください。
○ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行いできる限りユニット近傍で配管を固定してください。
○ドレン配管は下り勾配（1/50〜1/100）とし、途中山越えを作らないようにしてください。
○複数台のドレン配管の場合、下図のように本体ドレン出口より100mm以上下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP−30以上を使用してください。
○室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
○ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
○ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。
室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

ご注意　ダクトを接続し、送風機を運転するとユニット内部は大気圧に対して負圧となります。

例：上図の様に吸込グリル、エアーフィルター、ダクトの吸込側の圧力損失が100Paあるとすれば運転中のドレン水位は停止中に比べ10mm上昇します。

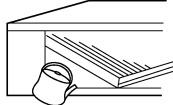
〈トラップの施工〉

ドレン排出口が負圧となる位置にありますのでドレンパンの水位上昇による水漏れを防ぐため設計上、トラップを（配管工事のとき）１ヶ所設けてください。
トラップは掃除が可能な構造とすることが必要です。下図に示すようにT形継手を使用してください。またトラップの高さも下図の様な寸法としてください。
トラップはユニットの近くに設けてください。

●ドレン配管の途中に１箇所、左図のようなトラップを設けてください。

H1=100mm又は送風機の静圧
H2= $\frac{1}{2}$ H1又は50〜100mm

⑦排水テスト

ドレン配管工事が完了したら、水を流して確認してください。

○サイドパネルをはずし、ドレンパンに1000c.c.の水を徐々に入れ、スムーズに排水することを確認してください。又、水漏れのないことをご確認ください。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い

室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

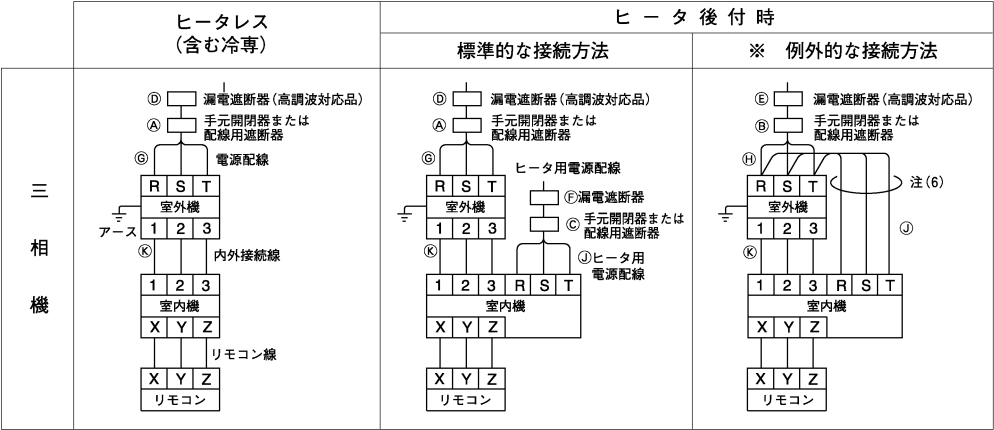
⚠ 警　告

- ●配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- ●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注　意

- ●アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- ●電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- ●正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。（ヒータ用電源は除く。）
　※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
②室内外接続線及びリモコン線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
　漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

注（1）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
　　Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
　（2）**室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。**
　（3）衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

		室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線　注(1)		内外接続線　注(1)		アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ　注(2)		太さ	ネジ
標準機・ヒータレス（含む冷専）	三相	P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	ϕ2.0×3	33m	ϕ1.6×3		ϕ1.6	M5
		P112	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm^2×3	32m	ϕ1.6×3		ϕ1.6	M5
		P140・P160	40A,30mA,0.1sec以下	50A	40A	40A	5.5mm^2×3	23m	ϕ1.6×3		ϕ2.0	M5
		P224	50A,100mA,0.1sec以下	60A	50A	50A	8.0mm^2×3	24m	ϕ1.6×3	49m	5.5	M6
		P280	60A,100mA,0.1sec以下	60A	60A	60A	14.0mm^2×3	34m	ϕ1.6×3	43m	5.5	M6

		室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器 定格電流	電源配線　注(1)		内外接続線　注(1)		アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ		太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ　注(2)		太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータレス	三相	VP80	20A, 30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	ϕ2.0×3	33m	ϕ1.6×3		ϕ1.6	M5
		VP112	30A, 30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm^2×3	23m	ϕ1.6×3		ϕ1.6	M5
		VP140・VP160		30A	30A	30A	5.5mm^2×3	23m	ϕ1.6×3		ϕ1.6	M5
		VP224	60A,100mA,0.1sec以下	60A	60A	60A	8.0mm^2×3	24m	ϕ1.6×3	43m	5.5	M6
		VP280		60A	60A	60A	14.0mm^2×3	34m	ϕ1.6×3	43m	5.5	M6

〈シングル機：ヒータ後付時〉

注 (4) ⒶⒹⒼⓀの仕様については上表のヒータレスと同一です。

(5) 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓙの記載なき欄の配線こう長は50mです。

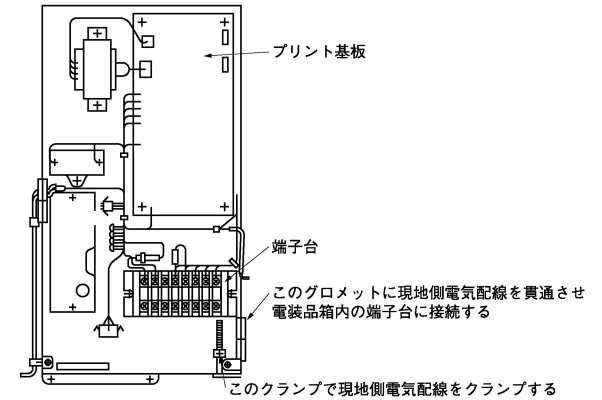
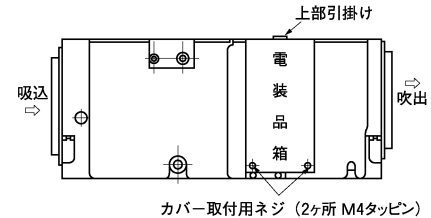
(6) **室内外接続線Ⓚとヒータ用電源線Ⓙは必ず別ケーブルとしてください。**

(7) 224, 280は、例外的な接続方法はできません。

		室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ　注(6)		太さ	ネジ
標準機・ヒータ後付時	三相	P80	30A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	30A	30A	15A	15A	15A	5.5mm^2×3	23m	ϕ1.6×3	31m	ϕ1.6	M5
		P112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm^2×3	20m	ϕ1.6×3	26m	ϕ2.0	M5
		P140	50A,30mA,0.1sec以下		50A	50A	50A	15A	15A	15A	8.0mm^2×3	24m	ϕ1.6×3	22m	ϕ2.0	M5
		P160		20A,30mA, 0.1sec以下	50A	50A	50A	30A	20A	20A	14.0mm^2×3	35m	ϕ2.0×3	26m	ϕ2.0	M5
		P224	—	30A,30mA, 0.1sec以下	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	30m	5.5	M6
		P280	—		—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6

		室外機	漏電遮断器 定格電流		手元開閉器		配線用遮断器	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(5)		ヒータ用電源配線 注(5)		アース線	
					開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数	こう長		
			Ⓔ	Ⓕ	Ⓑ			Ⓒ			Ⓗ		Ⓙ　注(6)		太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータ後付時	三相	VP80	30A,30mA,0.1sec以下	15A, 30mA, 0.1sec以下	30A	15A	15A	15A	15A	15A	5.5mm^2×3	23m	ϕ1.6×3	26m	ϕ1.6	M5
		VP112	40A,30mA,0.1sec以下		50A	40A	40A	15A	15A	15A	5.5mm^2×3	18m	ϕ1.6×3	22m	ϕ2.0	M5
		VP140			50A	40A	40A	15A	15A	15A	8.0mm^2×3	26m	ϕ1.6×3	22m	ϕ2.0	M5
		VP160	50A,30mA,0.1sec以下	20A,30mA, 0.1sec以下	50A	50A	50A	30A	20A	20A	14.0mm^2×3	38m	ϕ2.0×3	26m	ϕ2.0	M5
		VP224	—	30A,30mA, 0.1sec以下	—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6
		VP280	—		—	—	—	30A	30A	30A	—	—	5.5×3	26m	5.5	M6

電装品箱位置及び電気配線接続

(1) 電装品箱位置

(2) 電装品箱カバーの取りはずし方
カバー下部のカバー取付用ネジ２本をはずして
上部の引掛けをはずすとカバーがはずれます。

Ⓑ リモコン

リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

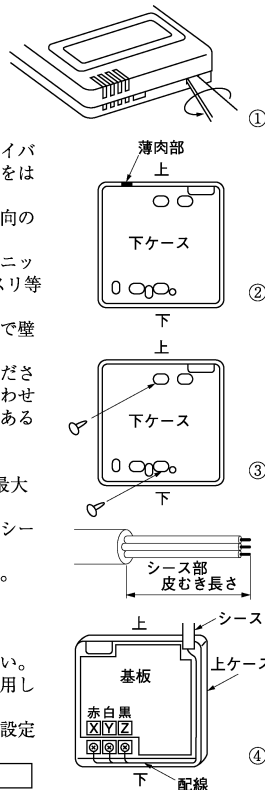
1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

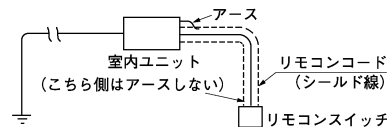
注意

リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。

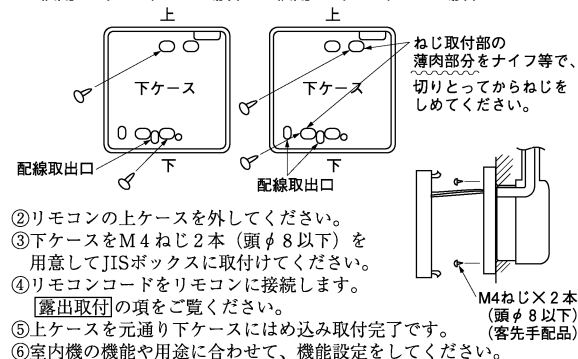
取付要領

露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー･ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ **機能の設定**の項をご覧ください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

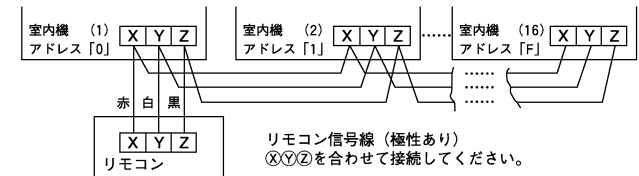
コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

①JISボックスとリモコンコード
（延長の場合はシールド線を必ず使用）
をあらかじめ埋込んでおきます。
〔使用可能JISボックス〕
●JIS C 8336
１個用スイッチボックス
２個用スイッチボックス

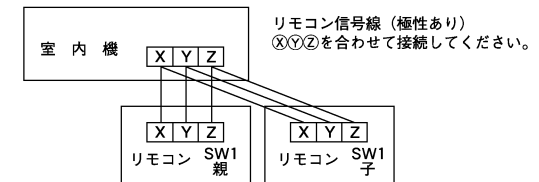
リモコンコード
JIS ボックス（客先手配品）

②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM４ねじ２本（頭φ８以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ **機能の設定**の項をご覧ください。

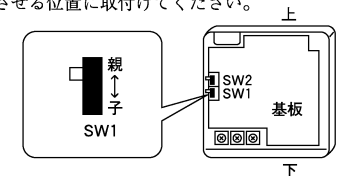
M4ねじ×２本
（頭φ８以下）
（客先手配品）

Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW1により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。

③電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。

②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW１	親	親リモコン
	子	子リモコン

Ⓔ 機能の設定

●**本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。**
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。
●［斜線］の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容 Ⓑ	設定内容 Ⓒ	初期設定
01	ｸﾞﾘﾙ昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	
		風向調整禁止	○
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ速調	ﾌｧﾝ3速	
		ﾌｧﾝ2速	○
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専／ﾋｰﾎﾟﾝ	ﾋｰﾎﾟﾝ	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容 Ⓑ	設定内容 Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正＋3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ非連動	○
		ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ連動	

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種(ヒーポン機／冷専機)により、自動判別されます。

Ⓕ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。
リモコンを次の手順で操作してください。
1．ドレンポンプ強制運転の開始
　① 試運転 ボタンを３秒以上押します。
　　「項目◆で選択」→「セット で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
　②「冷房試運転▼」の表示の時に、▼ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
　③ セット ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
　　表示：「ドレンポンプ運転」→「セット で停止」
2．ドレンポンプ運転の解除
　④ セット ボタン又は、運転／停止 ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
　　エアコンは停止状態となります。

Ⓖ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。
1．冷房試運転の開始
　① 運転／停止 ボタンを押して、運転します。
　② 運転切換 ボタンにより、「冷房」を選択します。
　③ 試運転 ボタンを３秒以上押します。
　　「項目◆で選択」→「セット で決定」→
　　「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
　④「冷房試運転▼」の表示で、セット ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
　　表示は、「冷房試運転」となります。
2．冷房試運転の解除
　運転／停止 ボタン又は、温度設定 ▽ △ ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
　「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
① 点検 ボタンを押します。
　「項目◆で選択」→「セット で決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
②「運転データ表示▼」の表示で、セット ボタンを押します。
③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
　▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
　（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
④ セット により確定します。
　（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
　「データ読込中」(データを読込む間点滅表示)
　　↓
　「運転データ◆」と表示され、01番のデータが表示されます。
⑤▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
　表示される項目は右記の通りです。
　※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
⑥室内機を変更する場合は、エアコンNo. ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
⑦ 運転／停止 ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、リセット ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	ﾃﾞｰﾀ項目
01	運転ﾓｰﾄﾞ
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度 1
05	内熱交温度 2
07	室内ﾌｧﾝ速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度 1
23	外熱交温度 2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ﾄﾞｰﾑ下温度
29	CT電流
31	室外ﾌｧﾝ速度
32	静音ﾓｰﾄﾞ有効/無効
33	63H2　ON/OFF
34	63H1　ON/OFF
35	ﾃﾞﾌﾛｽﾄ　ON/OFF
36	ｺﾝﾌﾟ運転時間
37	膨張弁開度 1
38	膨張弁開度 2

Ⓗ 制御の切換

(注)［□］囲みは、工場出荷時の設定

J-1	**短絡**	遠方運転入力（CnT）をレベル入力
	開放	遠方運転入力（CnT）をパルス入力
J-2	**短絡**	暖房サーモOFF時弱風
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風
J-3	**短絡**	通常運転
	開放	遠方運転入力（CnT）により運転制御
J-4	**短絡**	―――
	開放	暖房室温検知補正＋3℃

SW9-1 SW9-2	オートリフトパネルの降下長さの設定	
SW9-3	**OFF**	―――
	ON	応急運転（基板上のコネクタCnBも同時に抜く）
SW9-4	**OFF**	―――
	ON	高天井制御（ファン回転数アップ）